

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	研究
課題名：ベントグラス品種「チバグリーン B-1」のグリーンへの「シーワイツー」のインターシーディング技術			
[要約]「チバグリーン B-1」のベントグリーンへの「シーワイツー」のインターシーディングでは、播種前にサッチング処理、スパイクング処理を併用することで定着率が向上する。定着率は無播種区を基準に評価できる。			
リ-キ-ワ-ト` インターシーディング、サッチング、スパイクング、シーワイツー			
実施機関名 主 査 農業総合研究センター・生産技術部・花き緑化研究室 協力機関 有限会社ヤブタ			
実施期間 2004年度～2005年度			

[目的及び背景]

近年、ゴルフ場では、グリーンの病害対策、品質向上を目指し、既存の芝生に新品種の種子を播種するインターシーディング（追い播き）手法を用いた品種更新の取り組みが盛んに行われているが、確実に定着している例は少ない。一方、千葉県農業総合研究センターでは、雪印種苗（株）と共同で、種子繁殖性耐病性品種「シーワイツー」を育成した。今後、本品種の普及を積極的に図るためにも、インターシーディング技術の確立が重要である。そこで、インターシーディング時の播種品種の定着率向上技術を検討した。

[成果内容]

- 1 播種前に切り込み処理（サッチング処理）、穴あけ処理（スパイクング処理）を併用すると、初期の茎密度が増加し定着率が向上する。定着率の向上には、スパイクング処理の効果が高い（図1、2）。
- 2 播種前にサッチング処理、スパイクング処理を併用すると、グリーン面の冬季アントシアン発生程度は低くなり、冬季緑度は高まる（図3、4）。
- 3 定着率は、無播種区を基準に評価できる。

[留意事項]

- 1 播種期は、春は4月下旬～5月下旬、秋は8月下旬～9月上旬を目安とする。
- 2 播種量は、コーティング種子で10～15g/m²、裸種子で5～8g/m²を目安とする。
- 3 播種回数は、春と秋の年2回を原則とする。年間の播種回数、その後の追い播き回数は実生の定着程度によって変わる。
- 4 播種後、砂（直径0.3～0.5mm）を1L/m²散布する。
- 5 播種から定着までの約1か月間は、芝生面の乾燥を防ぐため適宜灌水を行う。

[普及対象地域]

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

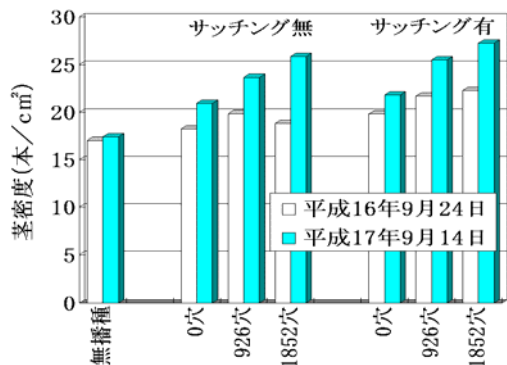


図1 播種前の処理方法の違いと茎密度との関係

平成16年5～7月に「チバグリーンB-1」に「シーワイツー」を3回インターシーディング 穴数は㎡当たり 平成16年9月24日、平成17年9月14日調査

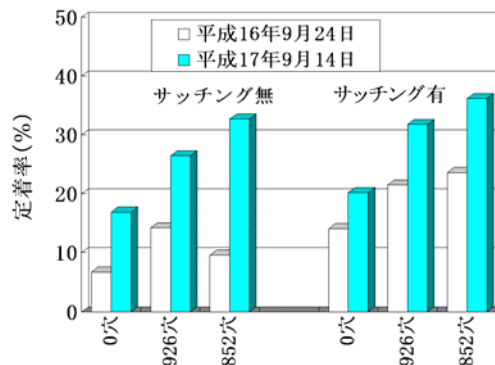


図2 播種前の処理方法の違いと定着率との関係
平成16年5～7月に「チバグリーンB-1」に「シーワイツー」を3回インターシーディング 穴数は㎡当たり 平成16年9月24日、平成17年9月14日調査
定着率 = (処理区茎密度 - 無播種区茎密度) / 処理区茎密度 × 100

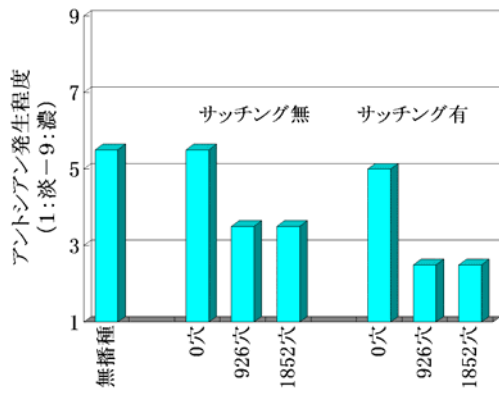


図3 播種前の処理方法の違いとアントシアン発生程度との関係

平成16年5～7月に「チバグリーンB-1」に「シーワイツー」を3回インターシーディング 穴数は㎡当たり 平成17年3月25日調査

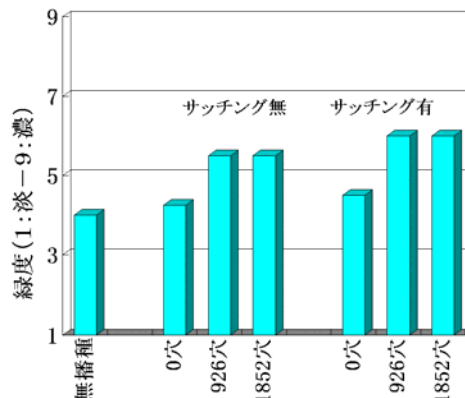


図4 播種前の処理方法の違いと緑度との関係
平成16年5～7月に「チバグリーンB-1」に「シーワイツー」を3回インターシーディング 穴数は㎡当たり 平成17年3月25日調査

[発表及び関連文献]

- ・加藤 正広・藪田 光男：冬期緑色保持性の高いベントグラス品種を用いたインターシーディング技術の開発 - 実生の定着に与える播種方法の影響 - 、芝草研究、第 36 巻 別 1 号、2007 年
- ・千葉県ゴルフ場等無農薬化推進連絡協議会：ベントグラスグリーンへのインターシーディング、2006 年

[その他]